

# 論文の書き方

吉備国際大学大学院(通信制)  
知的財産学研究科特任教授 加賀山 茂



# 論文の書き方 目次

## ■ I 論文の最終目標

1. 問題提起
2. 先行研究の分類とまとめ
3. 問題解決のための仮説
4. 本文(論点ごとの仮説の検証)
5. 結論(問題提起の答え)

## ■ II 論文の評価基準

1. 先行研究の読破
2. 問題解決のための新たな視点
3. 問題提起の答えの新規性・有用性

## ■ III 論文執筆の準備

1. 書くための読み方
2. 先行論文の整理・引用の仕方

## ■ IV 論文はアイラック(IRAC)で書く

1. Issue(論点・問題提起)
2. Rules(ルール・仮説)
3. Argument(議論)
4. Conclusion(結論)

## ■ V 議論はトゥールミン図式で

1. Data(データ)
2. Claim(主張)
3. Warrant(論拠)
4. Rebuttal(反駁)
5. Backing(裏付けと統合)

## ■ VI 参考文献



# 論文の最終目標

問題提起

- Issue: (問題提起) 重要な問題を発見したことの経緯を述べる。
- Rule: (仮説の提示) その問題を解決する視点と仮説を提示する。

本論

- Application: (仮説の検証) 問題をブロックに分割し、仮説を検証する。
- Argument: (反証推論) ブロックごとに問題を展開し議論を重ねる。

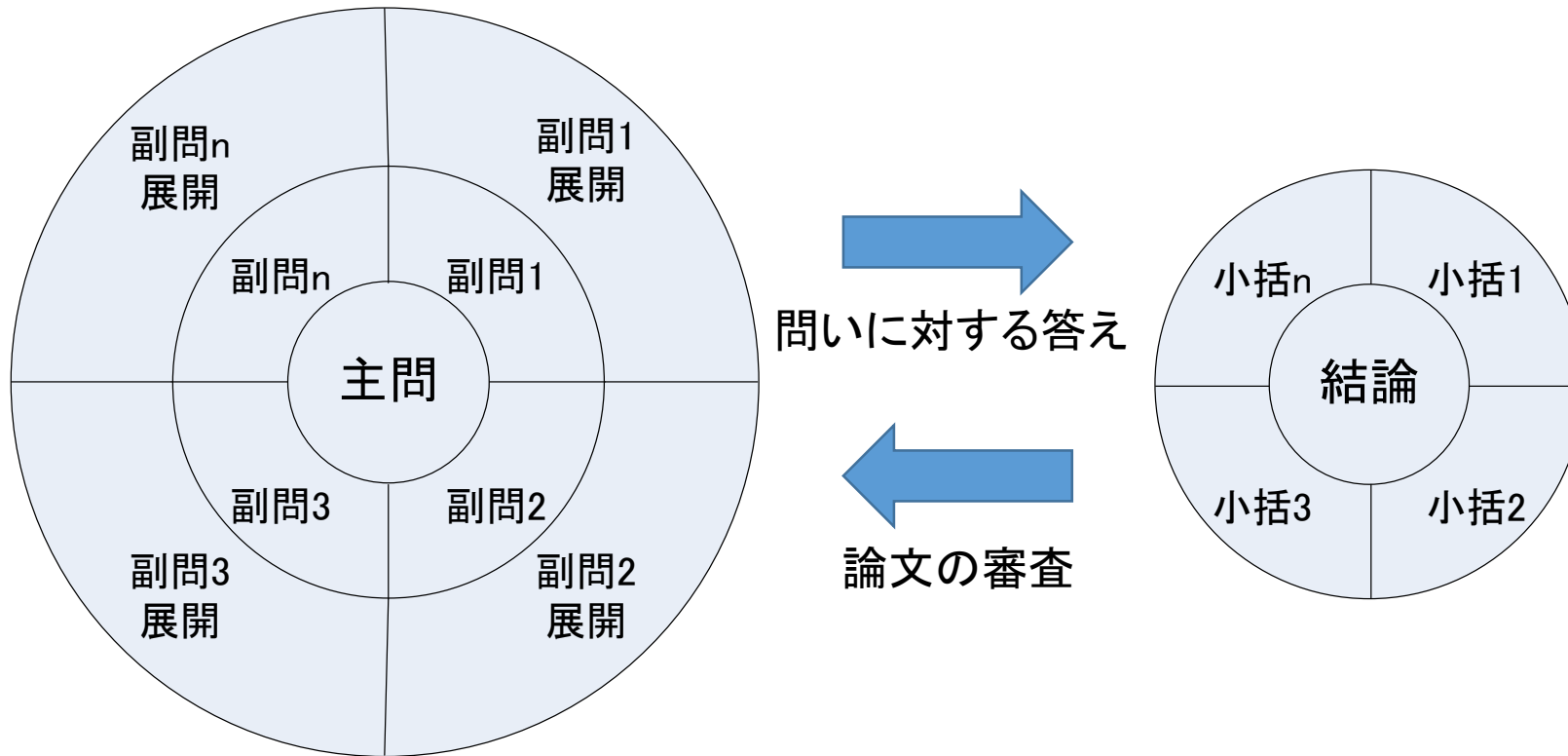
結論

- Conclusion: (結論=問題の答え) 展開して得られた答えを1つにまとめる。
- Issue: (今後の課題) 残された問題に対する展望を行う。



# 評価に耐える論文の書き方

澤田昭夫『論文のレトリック—わかりやすいまとめ方』講談社学術文庫(1983)



本文が、その問い(主問)を分割した個別的な問い(副問)のそれぞれについて、「説得的に論証する」ものとなっていることが大切。

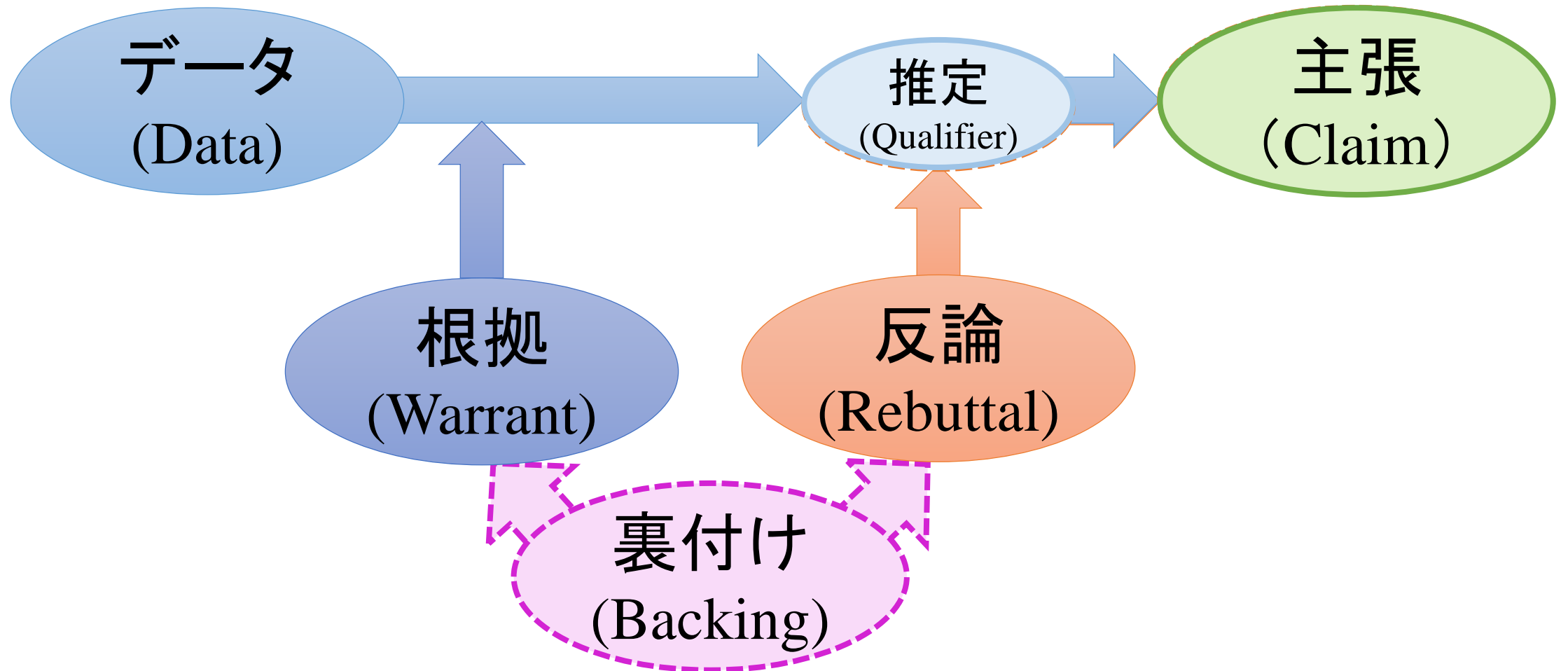
副問を総合した結論が、「最初の問いに対する答えになっている」ことが、何よりも重要である。

# 論文はアイラック(IRAC)で書く

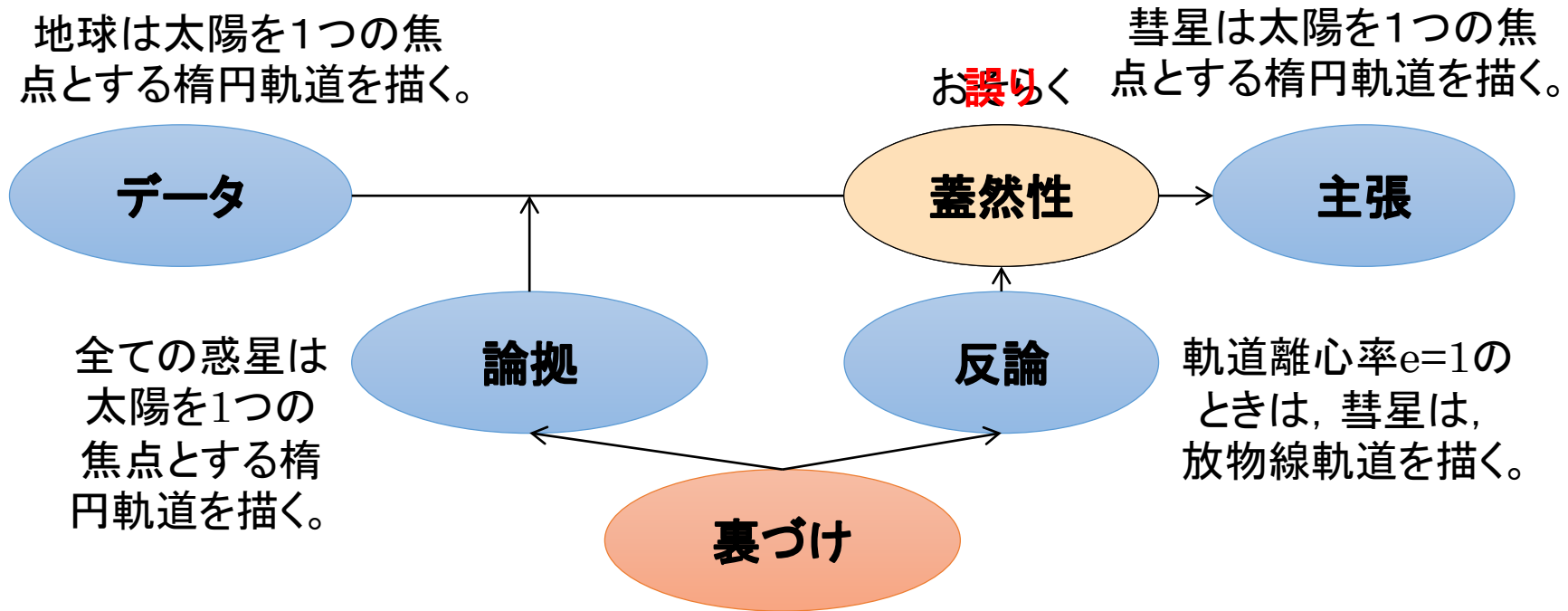
IRAC(アイラック)で考え, 論証する			
法的分析 能力	Issue	論点・事実の発見	
	Rules	ルールの発見	
法的議論 の能力	A	Application	ルールの適用
		Argument	原告・被告の議論
	Conclusion	具体的な結論	



# 議論はトウールミンの議論の図式で行う



# 発見の推論・仮説反証とトゥールミン図式



彗星の軌道( $e$ :軌道離心率)

1.  $0 < e < 1$ のときは、彗星は、楕円軌道を描く。
2.  $e = 1$ のときは、彗星は、放物線軌道を描く。
3.  $e > 1$ のときは、彗星は、双曲線軌道を描く。

# 科学的推論の3類型

## 演繹とも帰納とも異なる「発見の推論」とは何か？

### ■ 演繹(三段論法) (deduction)

- 全ての惑星は太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く。
- 火星は惑星である。
- 故に、火星は、太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く。

### ■ 帰納法 (induction)

- 水星, 金星, 火星... は, 太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く。
- 水星, 金星, 火星... は惑星である。
- 故に, 全ての惑星は, 太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く。

### ■ 発見の推論 (abduction)

- 火星は惑星である。
- 火星は, 太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く (ティコ・ブラーエの観測結果を基にケプラーが発見)。
- 故に, 全ての惑星は, 太陽を1つの焦点とした楕円軌道を描く (ケプラーの法則の定式化)。





# 参考文献

## ■ 法律家の思考方法

- イェーリング(小林孝輔=広沢民生 訳)『権利のための闘争(原著1872年)日本評論社(1978)
- カイム・ペレルマン(江口三角 訳)『法律家の論理—新しいレトリック』木鐸社(1986)
- フィッシャー=ユーリー(金山宣夫, 浅井和子訳)『ハーバード流交渉術』三笠書房(1990)
- 加賀山茂『現代民法 学習法入門』信山社(2007)

## ■ 論文の書き方

- [澤田昭夫『論文のレトリック—わかりやすいまとめ方』講談社学術文庫\(1983\)](#)
- [曾我謙悟「コラム・先行研究を読むとはいかなる営みなのか—大学院新入生への一つのアドバイス」\(上\)\(中\)\(下\)書齋の窓\(2014-2015\)No.635 32-36頁, No.636 24-29頁, No.637 35-38頁](#)

## ■ 議論の方法

- アリストテレス(戸塚七郎訳)『弁論術』岩波文庫(1992)
- 福澤一吉『議論のレッスン』NHK生活人新書(2002)
- 岩田宗之『議論のルールブック』新潮新書(2007)206頁
- スティーヴン・トゥールミン(戸田山和久, 福澤一吉訳)『議論の技法(The Uses of Argument(1958, 2003)) トゥールミンモデルの原点』東京図書(2011)

## ■ 学習方法論

- 井上尚美『言語論理教育入門—国語科における思考—』明治図書(1989)
- フリチョフ・ハフト／平野敏彦訳『レトリック流法律学習法』[レトリック研究会叢書2]木鐸社(1992年)
- 市川伸一『考えることの科学』中公新書(1997)
- 芝池宗克=中西洋介『反転授業が変える教育の未来—生徒の主体性を引き出す授業への取り組み』明石書店(2014/12/18)教育・学習方法論

